

経営一転語 87 優れたビジョンをもつこと

前回は、経営者は「社会的責任」と、「従業員に対する人間的な責任」を負っているという話をしました。

その責任を土台として、経営者は使命感を持たなくてはなりません。「使命感なくして、経営者の資格なし」とも言えるでしょう。

そして、この使命感の上に、経営者の人生観、哲学、価値観などを積み重ねて、「我が社の未来像」(ビジョン)を描く必要があるのです。

そして、描いて終わりではなく、それを繰り返し、繰り返し、反すうし、温め、次第、次第に高めていかななくてはなりません。

さらに、それを絶えず従業員に語り、社外の人にも話し、協力会社の人にも話していく必要があります。

そのようなことを続けていく中で、従業員が夢と希望を持ち、社外の人々や、協力会社の人々の援助や協力が得られるようになっていくのです。

そして、何よりも大事なものは、自分の発する言葉が、自分の耳から、自分の潜在意識に植え付けられ、「必ず実現してみせるぞ」という信念に変わっていくのです。

こうなれば、成功したのも同然なのです。

未来像(ビジョン)に基づき、長期目標が設定され、目標達成のための設計図ができ、発展の軌道に乗ることになるのです。

経営者の使命感を土台にしたビジョンのないところに経営はなく、発展・繁栄はありません。優れた企業は、必ず優れたビジョンを持っているものです。

皆さんも、優れたビジョンを掲げていきましょう。